

水谷川忠磨 みづがわ ちゅうまろ 畫家、歌人。明治二十五年八月二十七日東京府豊多摩郡落合村生れ、昭和二十六年五月二十日歿（一九〇一—六）。號紫山、筆名高地洵。近衛篤磨の四男、大正七年春日神社宮司水谷川忠起の養嗣子となる。學習院を経て、十五年京都帝國大學文學部哲學科卒。有島生馬、津田青楓の畫を學び、「紫山美術」等多くの雜誌を創刊、編輯に携はる。昭和二年「科會」の油繪入選、以後八年まで連續入選。七年家傳の華道御門流を再興。十二年貴族院議員、また陽明文庫を設立。戰時下、兄近衛文麿と政專、戰局に奔走。二十一年春日大社宮司に就任。

隨筆集『南風の花』（昭和十七年刊）、『槐記の茶料理』（昭和十九年一月十日月明會出版部「月明文庫」）、『紫山水谷川忠磨遺稿』（昭和四十六年九月一日水谷川忠磨遺稿集刊行會）等がある。



紫山水谷川忠磨遺稿